

2021年07月09日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

日本道路／久松社長が上信越道現場で安全パト／安全は人命に直結



現場を視察する久松社長〈右〉

日本道路の久松博三社長は、新潟県妙高市で施工している上信越自動車道・新井スマートIC施設改良工事の現場を5日に安全パトロールした。

北信越支店から堀吉伸支店長らも参加し、安全対策や施工状況などを確認した。久松社長は「現場の安全は人命に直結している。絶対に安全をおろそかにしてはならない。引き続き安全管理活動を徹底し、現場に潜む危険を見逃さないでほしい」と呼び掛けた。

工事名は「北陸自動車道R2上越管内舗装補修工事」（東日本高速道路会社発注）。北陸自動車道約100キロと上信越自動車道約40キロが対象。切削オーバーレイ工15万5000平方メートル、アスファルト舗装工8000平方メートルなどを行う。スマートIC施設改良は大湊、新井の2カ所。料金收受業務の遠隔化工事を実施する。工期は2020年3月6日～22年3月25日。

同社は「全国安全週間」と「環境月間」に合わせ、6月29日から7月6日まで全国10支店の現場で役員の安全パトロールを行った。

記事ID : 3202107090309

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます